

飲酒運転の根絶に向けた対策等
に関する検討結果
報告書

令和3年9月

千葉県交通安全対策推進委員会

飲酒運転根絶部会

目 次

1	背景及び目的	1
2	専門部会の主な検討事項	1
3	専門部会の概要	2
4	千葉県における飲酒運転による交通事故の実態等について	3
	(1) 千葉県における飲酒運転による交通事故の実態	3
	(2) 現状の対策	16
5	県民の意識調査	18
	(1) 実施概要	18
	(2) 実施結果	21
	(3) クロス集計分析	26
6	課題の整理	33
7	具体的対策（案）	36
	(1) 県民の飲酒運転根絶意識の更なる醸成等	36
	ア 県民の飲酒運転根絶意識の更なる醸成	36
	イ 運転者対策の推進	38
	(2) 事業所や飲食店等との更なる協力体制の構築	44
	ア 事業者の取組	44
	イ 飲食店及び駐車場所有者等の取組	49
	(3) 県民に対する情報発信等	58
	ア 県民に対する情報発信	58
	イ 教育及び知識の普及	60
	(4) 体系的な施策の整備	62
	ア 飲酒運転根絶協議会のあり方	62
	(5) 具体的対策（案）の方向性	65
8	専門部会における検討結果（まとめ）	66
9	有識者意見	68
	【参考1】現行法令による飲酒運転に係る規制等	70
	【参考2】飲酒運転厳罰化の経緯	72
	【参考3】他県における飲酒運転根絶条例の制定状況	73

1 背景及び目的

千葉県における飲酒運転による交通事故の発生状況は、近年、全国ワースト上位で推移しているほか、令和元年中の飲酒死亡事故件数は、全国ワースト1位を記録するなど、極めて憂慮すべき状況にある。

現状を打開するためには、飲酒運転の発生実態等を詳細に分析した上で、官公庁、関係機関・団体等が連携して、飲酒運転の根絶に向けた対策及び有効な取組等を推進する必要があることから、令和3年1月に、千葉県交通安全対策推進委員会の下部組織として、千葉県交通安全対策推進委員会飲酒運転根絶部会（以下「専門部会」という。）を設置し、検討を開始した。

その最中の令和3年6月28日、八街市において、下校途中の小学生児童の列に飲酒運転のトラックが突っ込み、児童5名が死傷する大変痛ましい交通事故が発生した。

飲酒運転の根絶に向けた対策を検討中の出来事であり、痛恨の極みといわざるをえず、一刻も早く、飲酒運転の根絶に向けた、より一層の対策等を講じていくことが必要である。

2 専門部会の主な検討事項

- (1) 飲酒運転根絶に向けた対策及び有効な取組等について
- (2) 対策等の方向性について

3 専門部会の概要

令和3年1月18日に本専門部会を設置し、令和2年度に1回、令和3年度に2回にわたり、飲酒運転根絶に向けた対策等について検討した。

(1) 実施体制

ア 有識者

千葉大学名誉教授 鈴木 春男 氏

早稲田大学教授 加藤 麻樹 氏

イ 部会構成員

千葉県環境生活部くらし安全推進課長（部会長）

千葉県健康福祉部障害者福祉推進課長

千葉県教育庁教育振興部学校安全保健課長

千葉県警察本部交通部交通総務課長

千葉市市民局市民自治推進部地域安全課長

千葉県市長会事務局長

千葉県町村会事務局長

公益財団法人千葉県交通安全協会事務局長

一般社団法人千葉県安全運転管理協会事務局長

千葉県商工会議所連合会事務局長

公益社団法人全国運転代行協会千葉県支部支部長

千葉県小売酒販売組合連合会事務局長

全国共済農業協同組合連合会千葉県本部副本部長

一般社団法人千葉県建設業協会事務局長

ウ 事務局

千葉県環境生活部くらし安全推進課

(2) 実施日程

第1回 令和3年2月15日（書面開催）

- ・千葉県における飲酒運転による交通事故発生状況について
- ・飲酒運転根絶に向けた千葉県の取組について
- ・国等における対策について
- ・課題の整理と対策（案）について
- ・質問紙調査の実施について

第2回 令和3年4月23日

- ・質問紙調査の実施結果について
- ・飲酒運転根絶に向けての具体的対策（素案）について

第3回 令和3年5月21日

- ・課題と対策の方向性（案）について
- ・飲酒運転の根絶に向けた対策等に関する報告書（骨子）について

4 千葉県における飲酒運転による交通事故の実態等について

(1) 千葉県における飲酒運転による交通事故の実態

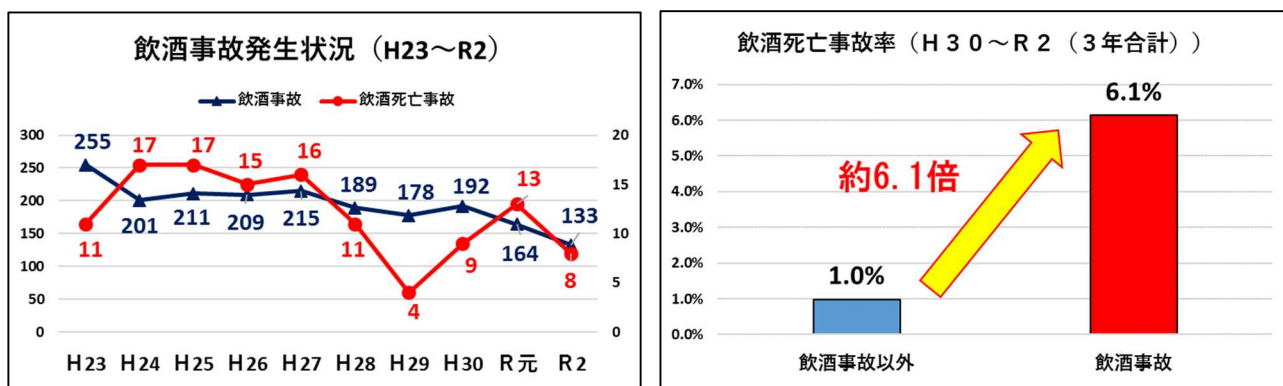
ア 飲酒運転による交通事故の発生件数の推移

令和2年中における全国の飲酒運転による交通事故の発生件数は2,522件（うち交通死亡事故件数は159件）であり、平成19年の改正道路交通法の施行による厳罰化以降、減少傾向にあるものの、近年は、下げ止まりの状況である。

千葉県は、全国でも飲酒運転による交通事故の発生件数が多く、過去10年間における飲酒事故の発生状況は、ワースト上位で推移しているほか、飲酒運転による交通死亡事故の発生状況に至っては、複数年に渡って全国ワースト1位を記録しており、問題は深刻である。

また、飲酒運転は、死亡事故等の重大事案に発展する危険性が高く、過去3年間で発生した飲酒運転による交通事故とそれ以外の交通事故の死亡事故率を比較したところ、飲酒運転による交通事故の死亡事故率は、それ以外の交通事故と比較して「約6.1倍」と高倍率であることが判明した。

【千葉県における飲酒運転による交通事故の発生件数の推移】



	飲酒事故	飲酒死亡事故
平成23年	255件 (ワースト3位)	11件 (ワースト7位)
平成24年	201件 (ワースト6位)	17件 (ワースト1位)
平成25年	211件 (ワースト3位)	17件 (ワースト1位)
平成26年	209件 (ワースト3位)	15件 (ワースト2位)
平成27年	215件 (ワースト2位)	16件 (ワースト1位)
平成28年	189件 (ワースト4位)	11件 (ワースト3位)
平成29年	178件 (ワースト4位)	4件 (ワースト18位)
平成30年	192件 (ワースト2位)	9件 (ワースト3位)
令和元年	164件 (ワースト3位)	13件 (ワースト1位)
令和2年	133件 (ワースト5位)	8件 (ワースト3位)

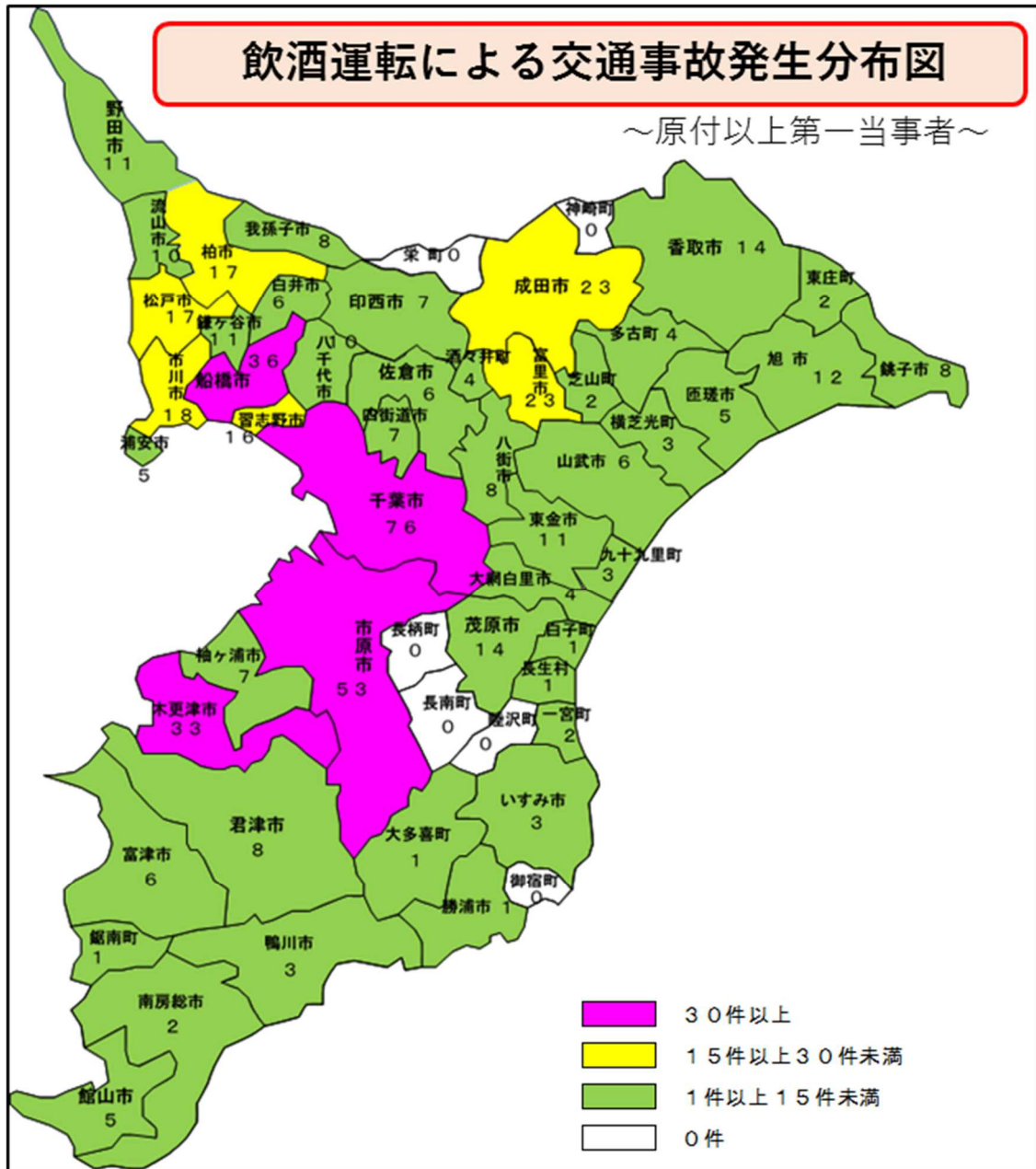
※「飲酒（死亡）事故」とは、四輪車及び二輪車の運転者が第一当事者で、基準値以下、調査不能を含む。

イ 飲酒運転による交通事故の発生実態（平成29年から令和元年までの間）

(ア) 発生場所

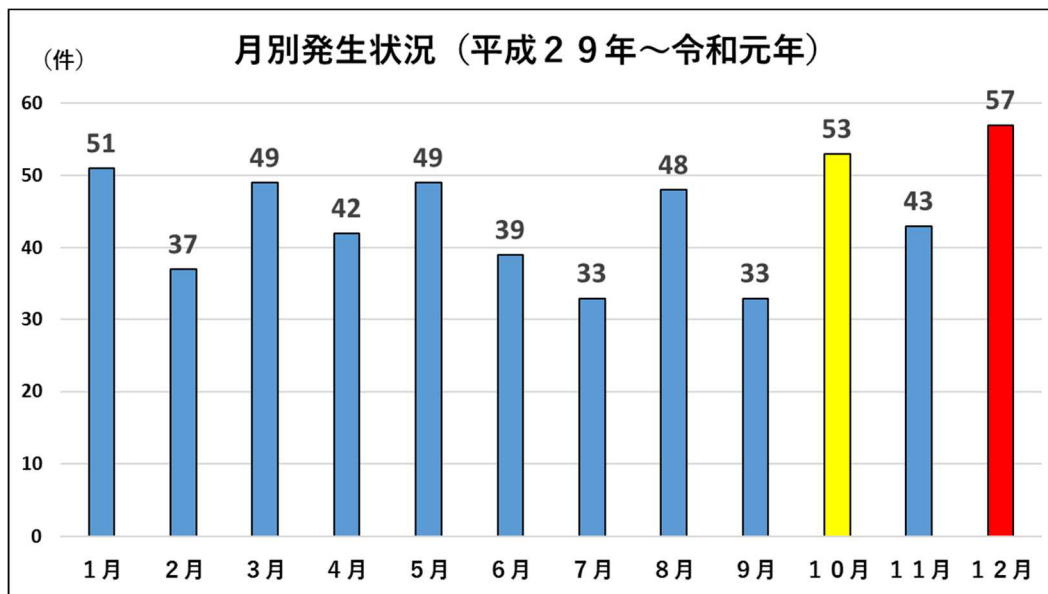
- ・千葉市や船橋市等の都市部、京葉・東葛地区において多発する傾向が認められるが、市原市や木更津市等の郊外においても一定数の発生が認められる。

【平成29年から令和元年までの飲酒運転による交通事故件数の合計】



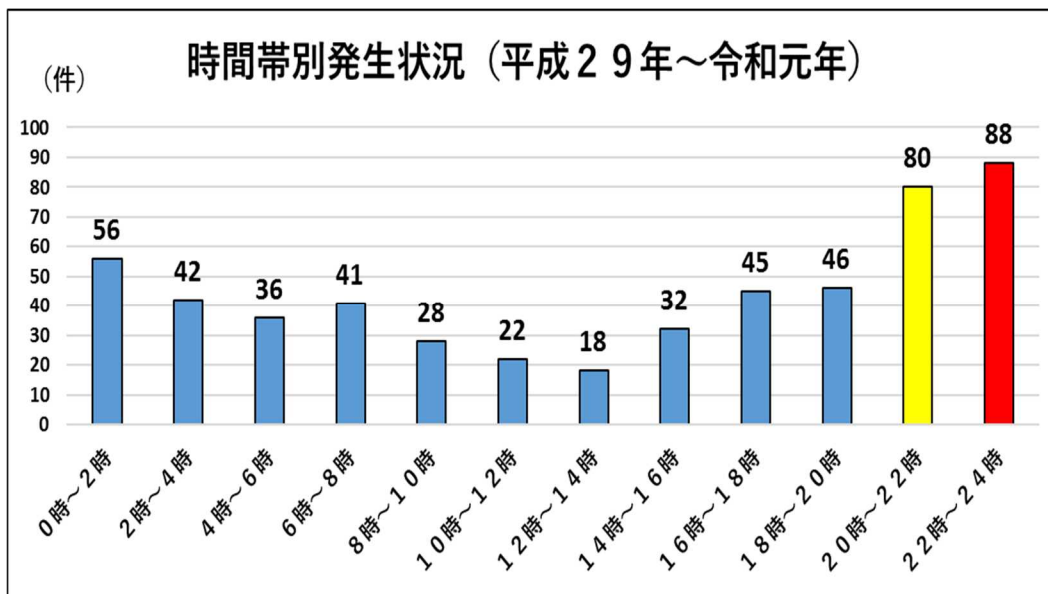
(イ) 発生時間帯等

- ・月別の発生状況では、12月が最も多いが、その他の月についても一定数の発生が認められる。



		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
平成29年	件数	12	15	20	9	20	16	8	11	7	22	18	20	178
	割合	6.7%	8.4%	11.2%	5.1%	11.2%	9.0%	4.5%	6.2%	3.9%	12.4%	10.1%	11.2%	100.0%
平成30年	件数	17	14	16	19	15	13	13	18	18	18	12	19	192
	割合	8.9%	7.3%	8.3%	9.9%	7.8%	6.8%	6.8%	9.4%	9.4%	9.4%	6.3%	9.9%	100.0%
令和元年	件数	22	8	13	14	14	10	12	19	8	13	13	18	164
	割合	13.4%	4.9%	7.9%	8.5%	8.5%	6.1%	7.3%	11.6%	4.9%	7.9%	7.9%	11.0%	100.0%
合計	件数	51	37	49	42	49	39	33	48	33	53	43	57	534
	割合	9.6%	6.9%	9.2%	7.9%	9.2%	7.3%	6.2%	9.0%	6.2%	9.9%	8.1%	10.7%	100.0%

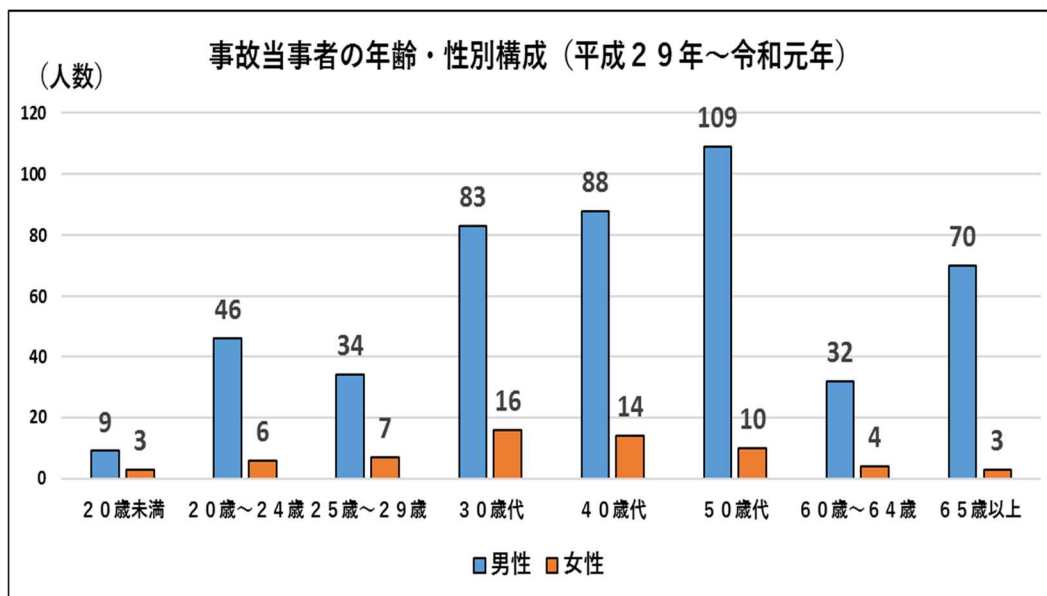
- ・時間帯別の発生状況では、深夜から早朝に多発する傾向が認められる。通勤・通学時間帯に重なる6時台から8時台にも一定数の発生が認められ、いわゆる「二日酔い運転」で事故を起こしている者も一定数いるものと考えられる。



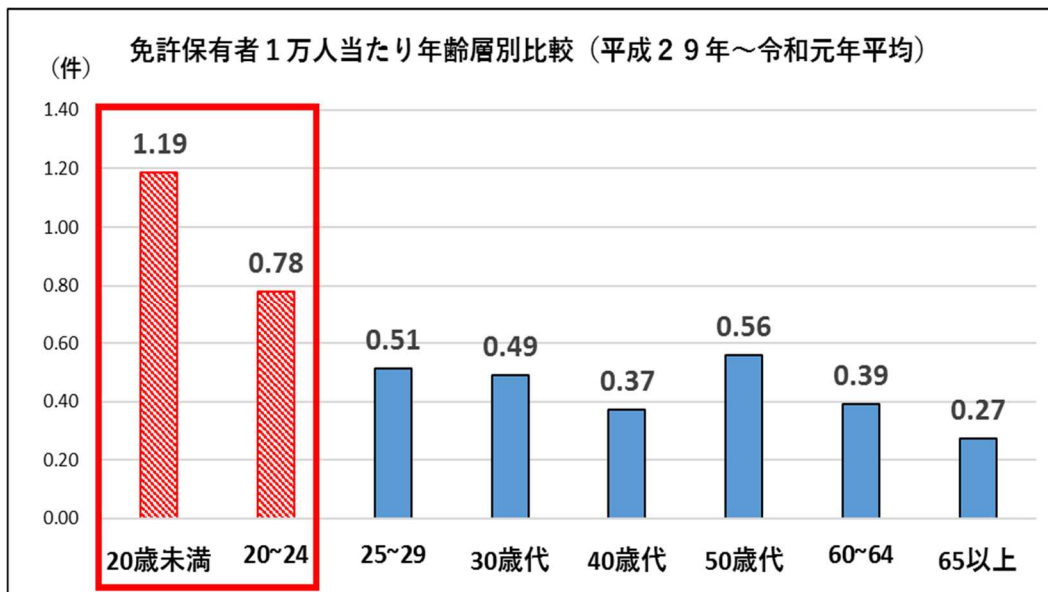
		0時～2時	2時～4時	4時～6時	6時～8時	8時～10時	10時～12時	12時～14時	14時～16時	16時～18時	18時～20時	20時～22時	22時～24時
平成29年	件数	19	15	16	11	7	10	9	9	12	11	29	30
平成30年	件数	25	16	8	17	11	6	7	11	18	17	30	26
令和元年	件数	12	11	12	13	10	6	2	12	15	18	21	32
合計	件数	56	42	36	41	28	22	18	32	45	46	80	88

(ウ) 事故当事者の年齢構成等

- ・幅広い年齢層に渡って、飲酒運転が敢行されている実態が明らかとなった一方、免許保有者1万人当たりの年齢層別の比較では、20歳未満、20歳から24歳までの若年層による飲酒事故件数の発生が多く認められる。

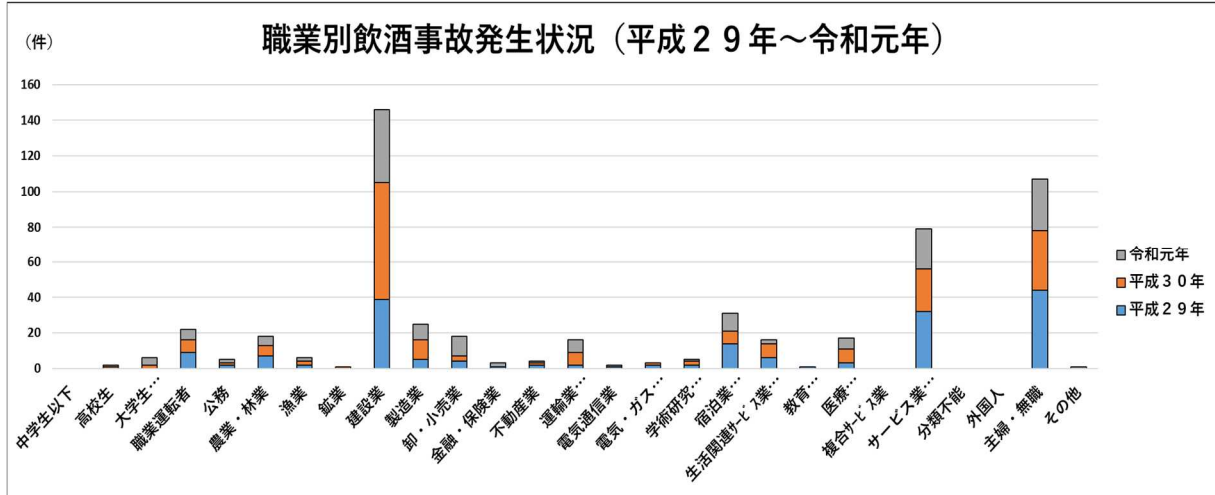


		20歳未満	20歳～24歳	25歳～29歳	30歳代	40歳代	50歳代	60歳～64歳	65歳以上	合計
平成29年	男性	2	13	11	30	32	37	10	21	156
	女性	0	2	3	5	4	5	1	2	22
平成30年	男性	5	15	16	23	29	48	12	21	169
	女性	1	1	3	7	6	4	1	0	23
令和元年	男性	2	18	7	30	27	24	10	28	146
	女性	2	3	1	4	4	1	2	1	18
合計	男性	9	46	34	83	88	109	32	70	471
	女性	3	6	7	16	14	10	4	3	63



		20歳未満	20~24	25~29	30歳代	40歳代	50歳代	60~64	65以上	計
平成29年	飲酒事故件数	2	15	14	35	36	42	11	23	178
	免許人口	34,591	220,922	267,881	688,159	922,444	703,479	309,677	873,840	4,020,993
	免許1万人当たり	0.58	0.68	0.52	0.51	0.39	0.60	0.36	0.26	0.44
平成30年	飲酒事故件数	6	16	19	30	35	52	13	21	192
	免許人口	33,682	223,506	264,092	671,654	913,184	729,016	306,268	896,261	4,037,663
	免許1万人当たり	1.78	0.72	0.72	0.45	0.38	0.71	0.42	0.23	0.48
令和元年	飲酒事故件数	4	21	8	34	31	25	12	29	164
	免許人口	32,698	222,286	265,377	654,090	899,993	755,266	304,853	905,044	4,039,607
	免許1万人当たり	1.22	0.94	0.30	0.52	0.34	0.33	0.39	0.32	0.41
免許1万人当たり (平均値)		1.19	0.78	0.51	0.49	0.37	0.56	0.39	0.27	0.44

- ・職業別では、幅広い業種に渡って、飲酒運転が敢行されている実態が認められる。



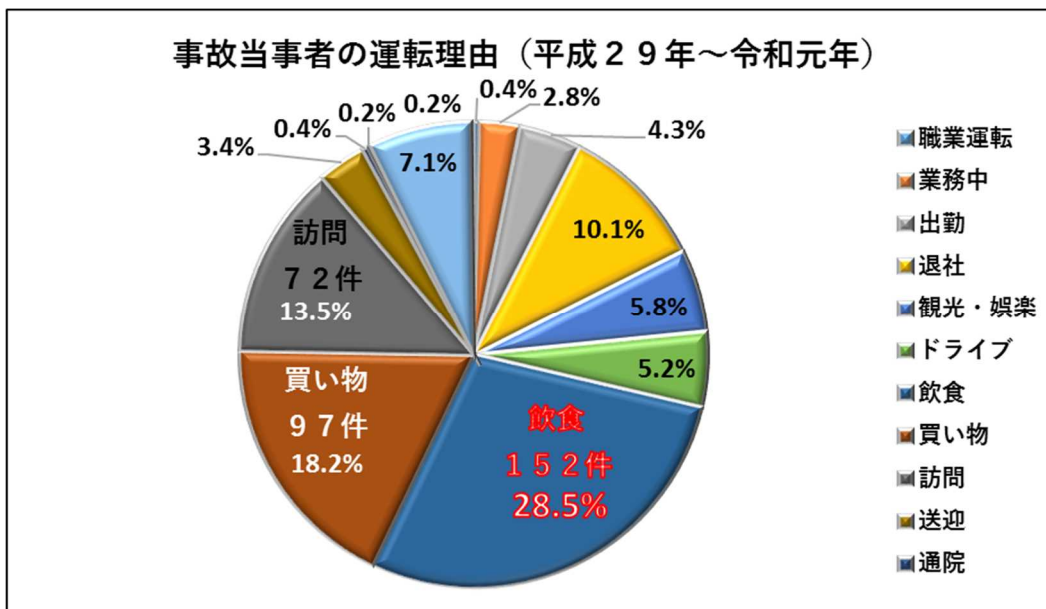
		中学生以下	高校生	大学生 その他の学生	職業運転者	公務	農業・林業	漁業	鉱業	建設業	製造業
平成29年	件数	0	0	0	9	2	7	2	0	39	5
平成30年	件数	0	1	2	7	1	6	2	1	66	11
令和元年	件数	0	1	4	6	2	5	2	0	41	9
合計	件数	0	2	6	22	5	18	6	1	146	25
	構成率	0.0%	0.4%	1.1%	4.1%	0.9%	3.4%	1.1%	0.2%	27.3%	4.7%

		卸・小売業	金融・保険業	不動産業	運輸業 郵便業	電気通信業	電気・ガス 熱供給・水道業	学術研究 専門・技術サービス業	宿泊業 飲食サービス業	生活関連サービス業 娯楽業
平成29年	件数	4	1	2	2	1	2	2	14	6
平成30年	件数	3	0	1	7	0	1	2	7	8
令和元年	件数	11	2	1	7	1	0	1	10	2
合計	件数	18	3	4	16	2	3	5	31	16
	構成率	3.4%	0.6%	0.7%	3.0%	0.4%	0.6%	0.9%	5.8%	3.0%

		教育 学習支援業	医療 福祉	複合サービス業	サービス業 (他に分類されないもの)	分類不能	外国人	主婦・無職	その他	合計
平成29年	件数	1	3	0	32	0	0	44	0	178
平成30年	件数	0	8	0	24	0	0	34	0	192
令和元年	件数	0	6	0	23	0	0	29	1	164
合計	件数	1	17	0	79	0	0	107	1	534
	構成率	0.2%	3.2%	0.0%	14.8%	0.0%	0.0%	20.0%	0.2%	100.0%

(エ) 事故当事者の運転理由

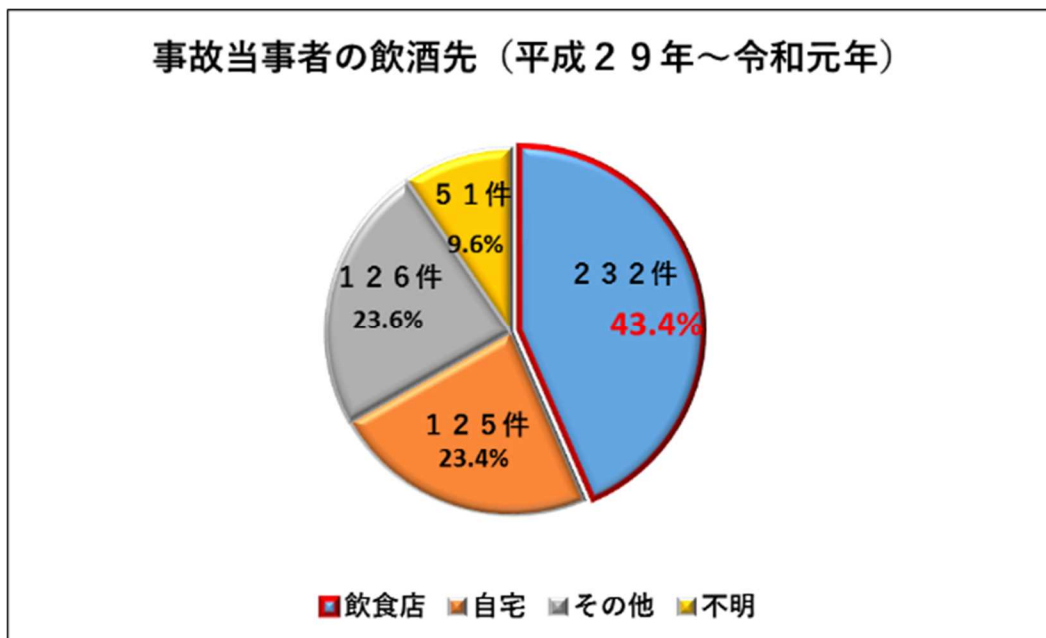
- ・事故当事者の運転理由では、「飲食」を理由とするものが最も多く、全体の約3割を占めており、次の理由として、「買い物」、「訪問」が続く。



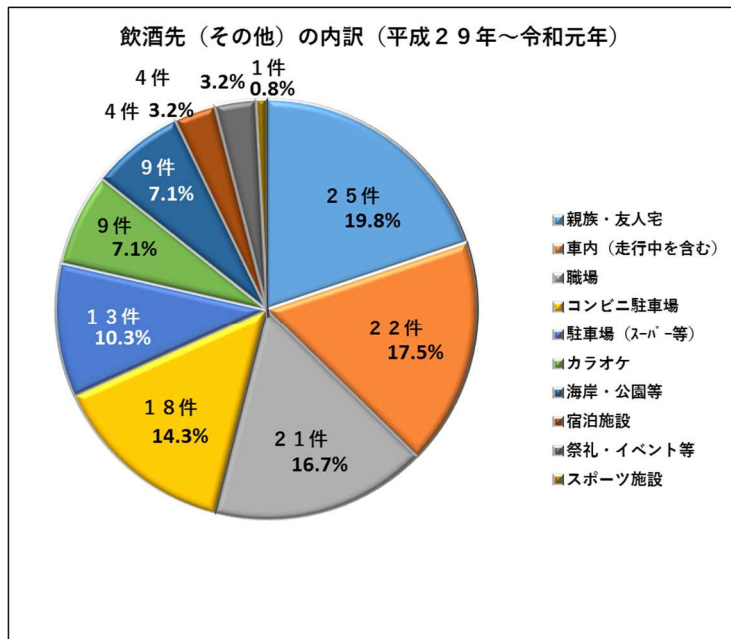
		職業運転	業務中	出勤	退社	観光・娯楽	ドライブ	飲食	買い物	訪問	送迎	通院	帰省	私用その他	調査不能	合計
平成29年	件数	0	6	10	19	10	14	53	28	21	8	0	0	9	0	178
	割合	0.0%	3.4%	5.6%	10.7%	5.6%	7.9%	29.8%	15.7%	11.8%	4.5%	0.0%	0.0%	5.1%	0.0%	100.0%
平成30年	件数	0	3	4	15	7	9	59	45	29	8	2	0	11	0	192
	割合	0.0%	1.6%	2.1%	7.8%	3.6%	4.7%	30.7%	23.4%	15.1%	4.2%	1.0%	0.0%	5.7%	0.0%	100.0%
令和元年	件数	2	6	9	20	14	5	40	24	22	2	0	1	18	1	164
	割合	1.2%	3.7%	5.5%	12.2%	8.5%	3.0%	24.4%	14.6%	13.4%	1.2%	0.0%	0.6%	11.0%	0.6%	100.0%
合計	件数	2	15	23	54	31	28	152	97	72	18	2	1	38	1	534
	割合	0.4%	2.8%	4.3%	10.1%	5.8%	5.2%	28.5%	18.2%	13.5%	3.4%	0.4%	0.2%	7.1%	0.2%	100.0%

(オ) 事故当事者の飲酒先

- ・事故当事者の飲酒先では、居酒屋等の飲食店が最も多く、飲酒先全体の約4割以上を占めており、次に「自宅」が続く。

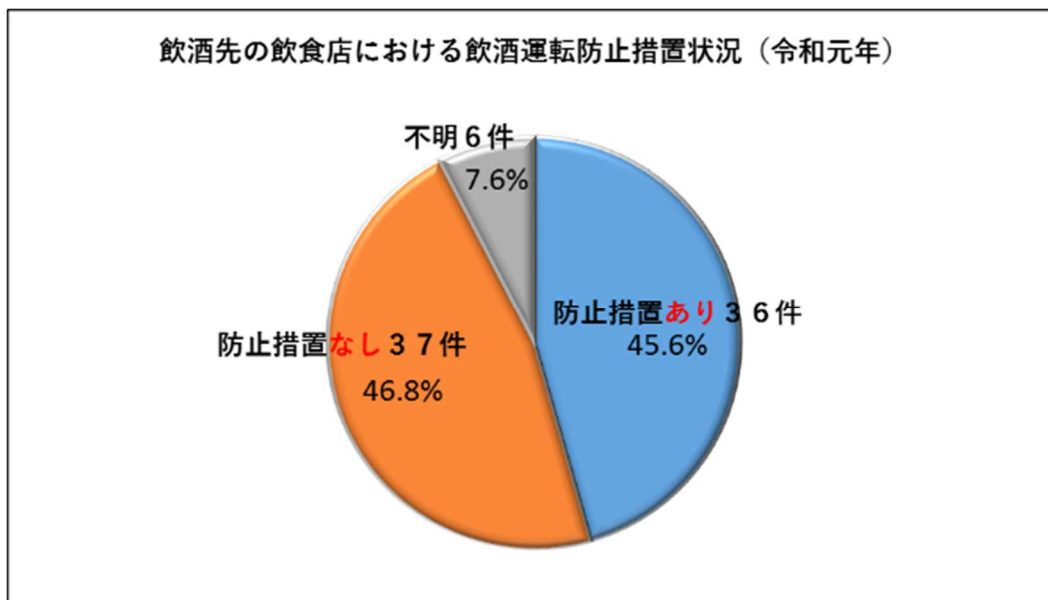


		飲食店	自宅	その他	不明	合計
平成29年	件数	84	38	44	12	178
	割合	47.2%	21.3%	24.7%	6.7%	100%
平成30年	件数	69	45	49	29	192
	割合	35.9%	23.4%	25.5%	15.1%	100%
令和元年	件数	79	42	33	10	164
	割合	48.2%	25.6%	20.1%	6.1%	100%
合計	件数	232	125	126	51	534
	割合	43.4%	23.4%	23.6%	9.6%	100%



		親族・友人宅	車内（走行中を含む）	職場	コンビニ駐車場	駐車場（スーパー等）	カラオケ	海岸・公園等	宿泊施設	祭礼・イベント等	スポーツ施設	合計
平成29年	件数	6	7	4	10	4	6	5	0	2	0	44
	割合	13.6%	15.9%	9.1%	22.7%	9.1%	13.6%	11.4%	0.0%	4.5%	0.0%	100.0%
平成30年	件数	13	9	13	3	4	2	2	3	0	0	49
	割合	26.5%	18.4%	26.5%	6.1%	8.2%	4.1%	4.1%	6.1%	0.0%	0.0%	100.0%
令和元年	件数	6	6	4	5	5	1	2	1	2	1	33
	割合	18.2%	18.2%	12.1%	15.2%	15.2%	3.0%	6.1%	3.0%	6.1%	3.0%	100.0%
合計	件数	25	22	21	18	13	9	9	4	4	1	126
	割合	19.8%	17.5%	16.7%	14.3%	10.3%	7.1%	7.1%	3.2%	3.2%	0.8%	100.0%

- ・令和元年中に発生した飲酒運転による交通事故のうち、事故当事者の飲酒先が「飲食店」であった場合について、当該飲食店の飲酒運転防止措置状況を確認したところ、約半数の飲食店で防止措置が講じられていなかった。



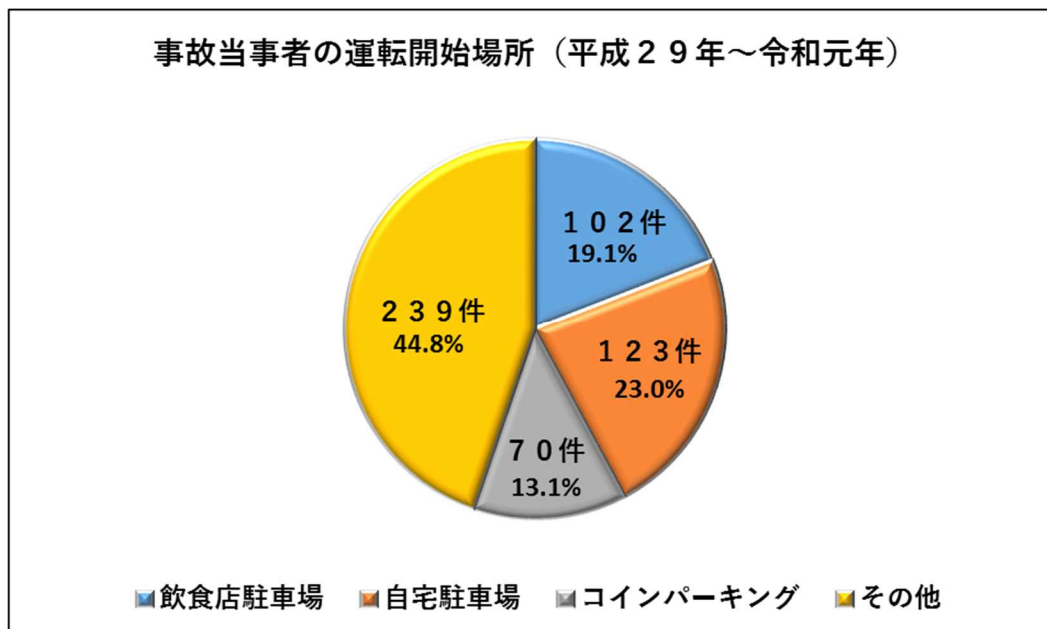
防止措置	あり	なし	不明	合計
件数	36	37	6	79
割合	45.6%	46.8%	7.6%	100%

注 「飲酒運転防止措置の実施状況」の「防止措置あり」とは、

- ① 飲食店内又は飲食店の駐車場に、看板、はり札、ポスター、その他飲酒運転の防止に関する意識の啓発を図るための広告物等が掲示されている
- ② 飲食店店員が利用客に対して当該飲食店までの交通手段を確認し、利用客の交通手段が車両の場合に帰りの交通手段を確認している
- ③ 代行業者を呼ぶなどの飲酒運転防止措置をとっているなどのいずれかに該当することをいう。

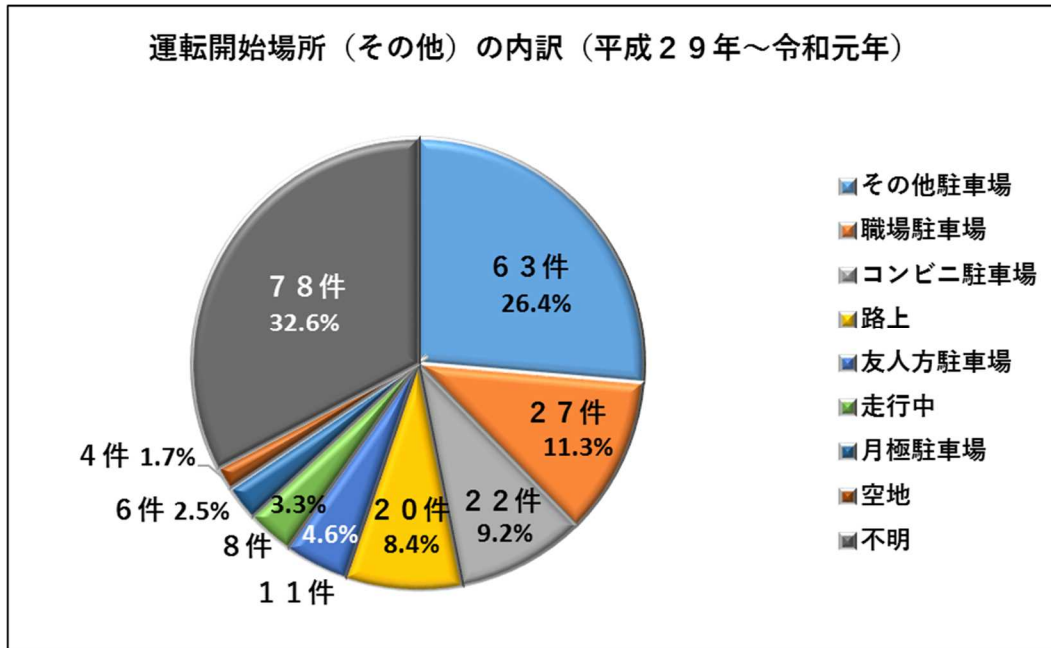
(カ) 事故当事者の運転開始場所

- ・事故当事者の運転開始場所では、自宅駐車場が最も多く、次に飲食店駐車場が続くが、コインパーキング等の駐車場についても一定数認められる。



		飲食店駐車場	自宅駐車場	コインパーキング	その他	合計
平成29年	件数	26	34	31	87	178
	割合	14.6%	19.1%	17.4%	48.9%	100%
平成30年	件数	26	46	25	95	192
	割合	13.5%	24.0%	13.0%	49.5%	100%
令和元年	件数	50	43	14	57	164
	割合	30.5%	26.2%	8.5%	34.8%	100%
合計	件数	102	123	70	239	534
	割合	19.1%	23.0%	13.1%	44.8%	100%

運転開始場所（その他）の内訳（平成29年～令和元年）



		その他駐車場	職場駐車場	コンビニ駐車場	路上	友人方駐車場	走行中	月極駐車場	空地	不明	合計
平成29年	件数	26	8	12	7	0	5	0	0	29	87
	割合	29.9%	9.2%	13.8%	8.0%	0.0%	5.7%	0.0%	0.0%	33.3%	100.0%
平成30年	件数	20	11	3	9	6	3	3	0	40	95
	割合	21.1%	11.6%	3.2%	9.5%	6.3%	3.2%	3.2%	0.0%	42.1%	100.0%
令和元年	件数	17	8	7	4	5	0	3	4	9	57
	割合	29.8%	14.0%	12.3%	7.0%	8.8%	0.0%	5.3%	7.0%	15.8%	100.0%
合計	件数	63	27	22	20	11	8	6	4	78	239
	割合	26.4%	11.3%	9.2%	8.4%	4.6%	3.3%	2.5%	1.7%	32.6%	100.0%

※「その他駐車場」とは、パチンコ店等の遊戯場、スーパー、商業施設、公共施設、カラオケ店、病院、駅、宿泊施設等の駐車場をいう。

(2) 現状の対策

ア 飲酒運転根絶対策の位置付け

飲酒運転根絶対策の位置付け



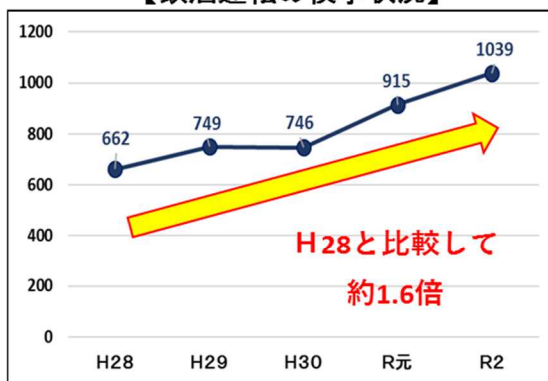
イ 県取組（飲酒運転根絶環境づくり事業の推進）

- ・県では、平成22年度以降、新たな地域における「飲酒運転根絶協議会」の設立を支援するとともに、その活動を継続的に支援し、「飲酒運転をしない、させない、許さない」社会環境づくりを推進している。
- ・四季の交通安全運動において、「飲酒運転の根絶」を重点項目とし、「県民だより」等の機関紙を通じての呼びかけやキャンペーン等の広報・啓発活動を展開。
- ・交通安全協会、県警等と協力し、飲食店等に対するハンドルキーパー運動を推進。付随して、コースター等の啓発物を作成し、飲酒運転根絶協議会の構成員等を通じて、飲食店等に配布。

ウ 県警取組

- ・飲酒運転の取締りを強化したことにより、飲酒運転違反者の検挙件数だけでなく、同乗罪等の飲酒運転周辺者三罪（車両提供罪、酒類提供罪、同乗罪）の検挙件数も増加傾向にある。
- ・飲酒運転で交通人身事故を起こした場合、交通捜査部門が綿密な捜査を行い、より罰則の厳しい危険運転致死傷罪を適用しており、令和2年は飲酒運転人身事故の約半数で危険運転致死傷罪を適用した。
- ・令和2年度までに、38警察署管内に「飲酒運転根絶協議会」を設置。
- ・令和元年から、県内の企業等を対象に、「飲酒運転根絶宣言」の取組を推進。

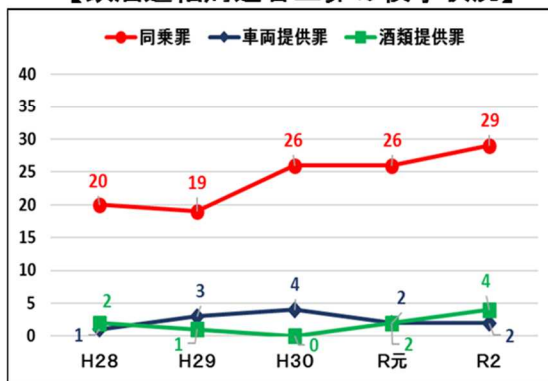
【飲酒運転の検挙状況】



【危険運転致死傷罪立件状況】



【飲酒運転周辺者三罪の検挙状況】



5 県民の意識調査

本県において、飲酒運転による交通事故が多発している現状を踏まえ、今後の対策を検討する上での参考とすべく、県民の飲酒運転に関する意識調査を実施。

(1) 実施概要

ア 調査方法

事務局から県警交通総務課に依頼し、県下38警察署において、免許申請等で来署した一般人を対象として、任意にアンケート調査を実施。

イ 調査期間

令和3年2月10日(水)から2月26日(金)までの間

ウ 回答状況

総数 1,333件 (うち有効回答数「1,020件」)

エ 調査項目

- ①全国ワーストの認知度
- ②周辺者3罪の認知度
- ③ハンドルキーパー運動の認知度
- ④飲食店における飲酒運転防止措置の確認体験の有無
- ⑤飲酒運転への問題意識
- ⑥飲酒運転の原因
- ⑦飲酒運転を防止するための各対策の必要性

※取締りの強化、アルコール依存症対策、飲食店対策、運転代行の利用促進、通報意識の高揚、勤務先対策

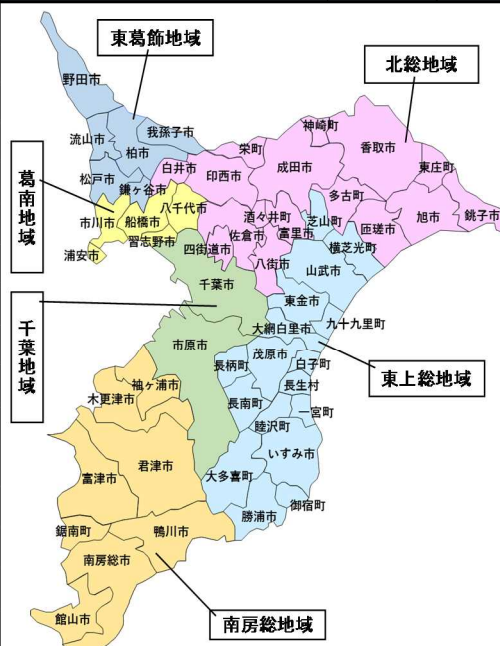
オ 分析方法

各設問ごとに単純集計を実施したほか、回答者の属性ごとの傾向を明らかにし、対策に反映させるため、回答者の属性等(居住地、年代、性別、職業、運転免許の経過年数、周辺者3罪の正答・誤答別)に応じて、クロス集計を実施した。

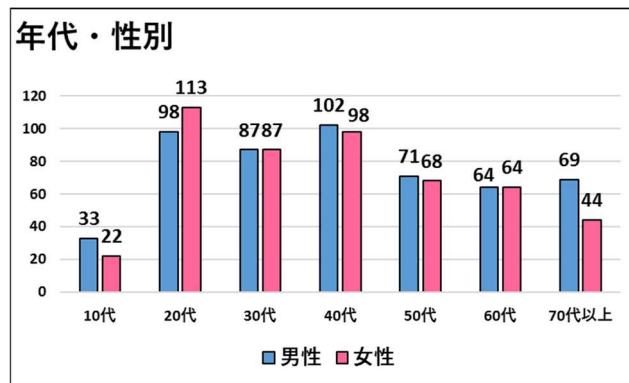
【有効回答者の属性】

○居住地

市 町 村 別 (県内54市町村)							
地域	市町村	有効回答者数	割合	地域	市町村	有効回答者数	割合
地 千 域 葉	千葉市	105	10.3%	東 上 総 地 域	茂原市	16	1.6%
	市原市	33	3.2%		一宮町	1	0.1%
	計	138	13.5%		睦沢町	1	0.1%
葛 南 地 域	市川市	54	5.3%		長生村	1	0.1%
	船橋市	54	5.3%		白子町	3	0.3%
	習志野市	26	2.5%		長柄町	2	0.2%
	八千代市	25	2.5%		長南町	2	0.2%
	浦安市	22	2.2%		勝浦市	27	2.6%
	計	181	17.7%		いすみ市	9	0.9%
東 葛 飾 地 域	松戸市	185	18.1%		大多喜町	0	0.0%
	野田市	17	1.7%		御宿町	2	0.2%
	柏市	33	3.2%		計	113	11.1%
	流山市	11	1.1%		南 房 総 地 域	館山市	17
	我孫子市	15	1.5%	鴨川市		12	1.2%
	鎌ヶ谷市	19	1.9%	南房総市		29	2.8%
計	280	27.5%	鋸南町	1		0.1%	
北 総 地 域	成田市	17	1.7%	木更津市		20	2.0%
	佐倉市	22	2.2%	君津市		29	2.8%
	四街道市	21	2.1%	富津市		6	0.6%
	八街市	1	0.1%	袖ヶ浦市		3	0.3%
	印西市	17	1.7%	計		117	11.5%
	白井市	13	1.3%	合計		1020	100%
	富里市	4	0.4%				
	酒々井町	8	0.8%				
	栄町	2	0.2%				
	香取市	22	2.2%				
	神崎町	4	0.4%				
	多古町	1	0.1%				
	東庄町	0	0.0%				
	銚子市	17	1.7%				
	旭市	21	2.1%				
	匝瑳市	21	2.1%				
	計	191	18.7%				
	東 上 総 地 域	東金市	14	1.4%			
		山武市	17	1.7%			
大網白里市		7	0.7%				
九十九里町		4	0.4%				
芝山町		1	0.1%				
横芝光町		6	0.6%				

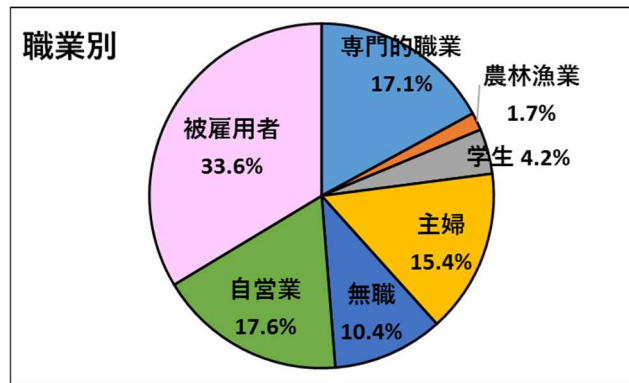


○年代・性別



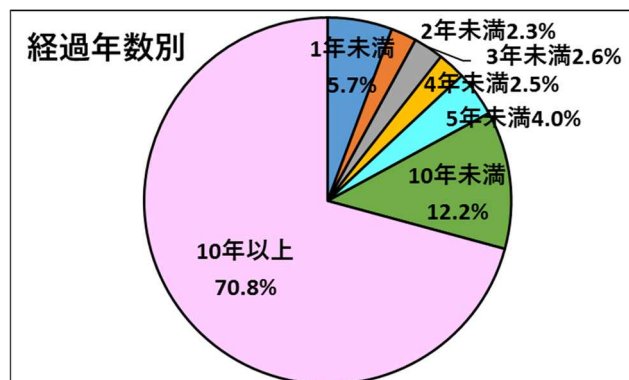
性別・年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	合計
男性	33	98	87	102	71	64	69	524
女性	22	113	87	98	68	64	44	496
合計	55	211	174	200	139	128	113	1020

○職業別



職業	専門的職業	農林漁業	学生	主婦	無職	自営業	被雇用者	合計
回答者数	174	17	43	157	106	180	343	1020
割合	17.1%	1.7%	4.2%	15.4%	10.4%	17.6%	33.6%	100%

○運転免許の経過年数別



経過年数	1年未満	2年未満	3年未満	4年未満	5年未満	10年未満	10年以上	合計
回答者数	58	23	27	25	41	124	722	1020
割合	5.7%	2.3%	2.6%	2.5%	4.0%	12.2%	70.8%	100%